

第10回瀬戸内4県都市長会議を開催しました

令和6年10月15日（火）に、岡山市内にある「岡山城 不明門」において、「第10回瀬戸内4県都市長会議」を開催しました。

まず、岡山市から令和6年度事業報告として、二つの事業について報告がありました。一つ目は「シンガポールのメディアを招請した情報発信」、二つ目は「インバウンド向けのリーフレットの作成及び配布」です。一つ目の「シンガポールのメディアを招請した情報発信」では、比較的滞在日数が長く、日本へのリピート率が高いシンガポールをターゲットとし、10月7日よりシンガポールの旅行系メディア「The Travel Intern」からPR動画の配信を行っています。PR動画は、関西空港から瀬戸内エリアへの交通手段であるJR瀬戸内エリアパスと観光情報をセットにし、実際に旅行する際に参考となる行程としています。二つ目の「インバウンド向けのリーフレットの作成及び配布」については、来月中の完成を目指していること、また、関西から瀬戸内エリアへの交通手段及び観光情報を分かりやすく掲載し、完成後は、JR関西空港駅やJR新大阪駅の訪日カウンターなどで配付するとともに、各都市にもお渡しする予定としています。

次に、令和7年度事業について、高松市から、世界中の国と地域、日本全国の観光地が集結する、年に一度の世界最大級の旅の祭典「ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸」に4市共同で出展し、大阪・関西万博などで日本に訪れた旅行者や旅行代理店、また、地方に関心を持つ国内外の旅行者や旅行代理店をターゲットとして、瀬戸内エリアの観光情報や周遊プランを提案することにより、瀬戸内4市の認知度向上を図ることを提案しました。出展ブースでは、令和3年度に制作した360度パノラマ動画や、令和5年度に制作した海外メディア向けの記事、今年度に制作したFAMツアー動画及びリーフレットの活用を検討しています。

続いて、「歴史・文化を活用した観光誘客」というテーマに沿って4市で意見交換を行いました。岡山市からは、歴史遺産の魅力、価値、エピソードなどを、観光的な視点を踏まえてわかりやすく発信し、観光誘客を図ること、高松市からは、交通の拠点が集結し、大型開発が進んでいるサンポートエリアと、高松城の跡の玉藻公園のエリアを融合させた形で、より観光に資するものにしていくこと、広島市からは、歴史・文化の発信拠点に加え、観光拠点としての広島城の魅力の向上を通じた都心の回遊性の向上を図るための広島城三の丸の整備や、伝統芸能である神楽を全国に発信し、観光客の誘致及び滞在の促進につなげること、松山市からは、愛媛県と連携し、市内の観光施設とお土産屋や飲食店などを組み合わせて、旅行会社が企画を組みやすいようにし、誘客を促進することなどの取組について、発言がありました。

瀬戸内4県都市長会議当日の様子

